WRI News Letter No 100

1980.4.10 戦争抵抗者インター日本部。大阪市阿倍野区旭町2-12-2。編集発行 ウリ大阪。

Non-Violent Revolution

八〇年代反原発闘争の意味

ウリニュース100号・TMI事故一周年に

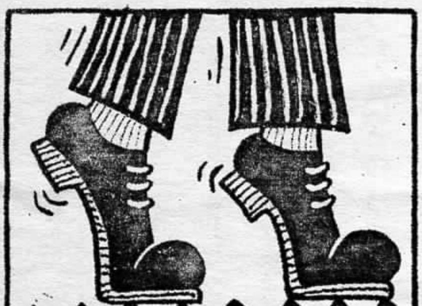
この小論は昨年スリーマイル島事故直後のイオム通信にかいたものだが、殆ど状況が変っていないという意味で再録する。

▼スリーマイル島事故が起こる一と月ほどまえの集会で、偶然にもぼくはこんなことを云った。「原発の大事故が、そのうちどこかできっとおこる。それが破局的なものか、その一歩前か、どっちにしても、その結果は、政治的経済的社会的に大きく体制をゆるがせ、原発推進の方向を転換させる契機となるにちがいない。それは残念ながら、反原発運動の力によって、原発推進派に打撃を与え、やり方を変えさせる、ということではない。だが、そのときにこそ、反原発運動の力と、その存在の意味を問われ試されることになる。

▼いま私たちの運動は、なお弱く小さく、推進派の物量作戦に対してたゞ現地住民のがんばりの持続力だけをたのみとして、都市では殆ど一指も有効な攻撃をかけえていない、ということがある。

そしてはじめて都市の反原発運動はそのとき、改めてどのような致命的打撃を与えることができるか、問われる。いままでの活動のなかでどれだけの経験をつみ、その実力をたくわえてきたか、試される。そしてそれが八〇年代闘争の動向を決定する分岐点ともなる。」

▼「たとえば、あのベトナム戦争において米国は決して軍事力におい



あさひまち反原発新聞　２号（４月３日発行）をつくってウリ周辺の戸毎に配布をしました。希望の向には送ります。

て、また個々の戦闘で、敗けたのではなかった。南ベトナム解放戦線と北ベトナムは、長い戦争の期間中をたゞ米軍に敗けないことにおいて戦いつづけ、さらに米軍が遂に勝つことをあきらめて撤収をはじめようとするとき最後にサイゴンに突入することによって、最終的戦局のヘゲモニーをにぎったのだった。

つまり、その最後のときを機会としてとらえ、しかも反原発運動が、そのサイゴンまで攻めこむことができるか、どうか！である。

▼つまり私たちが小数非力のまま、推進派に打克つことができずとも、なおたゆみなく闘いつづけるならば、おそらく、原発推進を致命的にする大事故が、10年といわず85年ぐらいまでにやってくる。そのとき政府や資本側は、ベトナムの米軍のように（今は到底考えられなくても）、原発政策の消極化、現状維持、方向転換を、いかにも自分の選択でのようにやろうとする。それを反原発運動がどれだけ先取りし、ヘゲモニーを自分のものとして、相手の転換を、最後の決定的なところまでおしすゝめうるか、どうか。凸

▼こうみてくると、スリーマイル事故がはからずももたらした現在の状況を、いまどのように自分らの運動の力として取り込むことができるか。私たちの主張と声を、市民の主張と声ともし、運動の力とするために、このスリーマイル事故での経験を、どんな教訓として受とめるべきか。凸

それにしても殆ど用意も心構えもなく、たゞ生起する状況にふりまわされ、ようやくついていく？かそのままチヤンスをみのがすーといった運動の立おくれは（例えば、原発問題を一般化する絶好の機会であった今回の電気料金値上げなど）いまも解決されていない。とすればいまぼくらが銘記しておくことは、つねに新しく起るべき事態の一つ一つを具体的に想定し、待機即応してうごくことを可能とする姿勢づくりだろう。そして日常活動は、その待機即応のためにこそ進められるという視点こそが、状況追随のおくれを打破するものとなる。創り出されたトレーニングとしての日常活動、その追求こそ、スリーマイル事故一年目の日を迎えて、改めてのぼくの感想である。

厚

▼使用済切手・切符コレクションをしています。ウリから送った封筒切手切ぬいて、まとめて時々送って下さい。

▼ウリニュース購読は「返付用封筒」（宛名自記・50円切手貼付済のこと）6〜10枚（半年分）お送り下さい。

ルポⅠ 3.28大阪

アメリカ・スリーマイル島の原発大事故があってちょうど一年目ーということでデモが提起された。一周年というのでは計画しやすいのだが、それだけでは何となくこちらが闘いの土俵を創る、敵を攻めてうつーという姿勢が弱い気がする。とは云っても、そうそう「これぞ」というものを創るのは難しいよね。

実行委をつくって、三回ひらいた。ゼネ石など労組からの新しい参加が目立ったが、その反面、常連的な原関連グループの姿がすくなかった。

今回は大阪総評も力を入れて大動員するというので、なんとなくそれにおんぶしたかたちもあった。実行委としても扇町公園の設営など、ほんの手伝うという形で気軽るにやれた部分もある。

◆

さて28日午后6時〜7時集会。「デモの先頭は女グループが中心の市民団体約二〇〇、一周忌ということで、白い柩をかつぎ、そろいの白装束。手には線香や鉦、鈴、大鼓、ナベのフタのシンバルや笛、空缶。ドン・ジャーン・ガラガラ・チーン。「ゲンパツ、ヤァメロ！」「ゲンパツヤァメロ！」ふん然として行進。四拍子の大合唱は大阪の夜空にひびきわたった。すぐうしろは約五〇人の学生集団、時にジグザグをしたりしていせいがイイ。そのうしろえんえん労組の隊列もシュプレヒコールをあげている。総勢二千位か。

さて私、日ごろのストレスをはらすように大声をはりあげたもんで、少々声がかすれ気味。だけど、デモはやっぱり運動の中のお祭りだ。

運動のほとんどは日常の事務仕事ー封筒のあて名かきとかビラの印刷とか、まあ、あんまり面白くて解放されるなんてもんじゃない。その中ではやっぱり祭だナ。年中行事としての祭。雨ごい祭…。私がいちばんやりたいのは──だ。それまでは、まぁボチボチ、日常事務を確実にこなしていくよりしゃあないな。

（ふう）

ルポⅡ 3.29くらしき

「倉敷電気料金を考える会」ーまだ出来てまもないらしいが、気力とアイディアあふれる闘争を展

宇利乃 奈加万乃 阿伊古止波 喫天尓 乃里越

振替口座 大阪三二七三七 ウリジャパン 向井 孝

用している。

不当な電気料金値上げが頭にきた主婦三人の行動にはじまり、話合いに応じない中国電力に対して、営業所前空地を〈十日間六千円で(?)借りての「すわり込み」キャンペーンと一万人署名運動。右翼が襲ってきたりの事件もあったが対応のやわらかさで、むこうも折れてきたとか。何と一日あまりであつめた七千人の署名をつきつけられて、ハンスト突入をおそれた中電サン、やっと話合いに応じるといってきたのが三月八日夜。ところが説明会は十日にしたいと主張。市民にしらせるには一日しかない。そこで、えいや、とばかりセスナ機をチャーター〈一時間六万円〉空から参加を呼びかける。さらにアドバルーン〈三万円?〉をあげて日時場所をしらせる。すごいねえー。 説明会は大入りだったが中電側、所長は病気と称して出て来ず、夜十時、会場閉場で時間切れ。再度を要求してハンスト…五日間。

3月29日、この「考える会」が一月頃、不払い連へ資料送付を云ってきたのが縁故で、よばれて、漫才?をしにいった。会場はそらくりっぱな市民会館中ホール。シャンデリアに照されて、何しろはじめてなもんで、ちょっとあがったが、トチルのも愛嬌。さすが「電気料金を考える会」というより「行動する会」、のみ込みが早く、万才の内容を共有、って感じの笑いがいっぱいかえってきた。すでに一月から不払いをやってる主婦の経験談。福山不払いの経過、高松からきた「伊方訴訟支援の会」からの報告。〈二号炉裁判は弁護士なしの本人訴訟でとてもユニークでおもしろい。6月23日の公判、傍聴にいってみようかナ〉

あっちでもこっちでも竹の子のように、によきによき反原の声がこだましている。 電気料金値上げのこの機会を、最大のチャンスとして、いま、がんばらなくちゃーー 〈凤〉

▽4月16日PM6:30 不払い連びっくり市民講座ー於共同小屋（扇町）『値上げ関電と、とことんまでつきあう法』ーカンパ三〇〇円也

▽百号非記念ふつう号をおとどけします。101号より、紙名を〈ウリニュースレター 非暴力直接行動〉と変えようと思います。ご意見お送り下さい（K&F）

war resisters' international 日本部